

JCE6「教会開拓・教会増殖」プロジェクト計画案

① 「目的」教会開拓・教会増殖へ向けた宣教協力を形成していく

ビジョンの明確化 99%に届くためのビジョン

教会増殖というビジョンを共有する

神は、すべての人が救われて、真理を知るようになることを望まれている。

自分たちの団体だけ見ては、クリスチャン1%内のビジョン。

99%のイエス様を信じていない人に対するのビジョン。

現状の明確化 福音のアクセシビリティを明確にする。

日本にある、福音を届けようとしていない市町村、教会未設置市区町村が数多くある。

人間関係での福音へのアクセスがない。教会から距離的にも遠い地域がある。

誰も福音を伝えようとしていない、“見捨てられた地域”がある。

開拓伝道への障害を取り除く取り組み 自分たちも参加できるという意識づけ、雰囲気作り

“開拓”という言葉自体誤解を生む、信徒活性化運動の方がいいと思っている。

家庭集会をリストアップしたり、祈りの家、家庭集会を活性していきましょうというような、アプローチ。

家の教会のリストアップをしていく。芽が出てくる、その足元から増えていくのではないか？

そうすると、8000教会ではなく、2万ぐらいになっているのでは。

② 「目標」教会増殖の雰囲気、土壌づくり

2023年の7年先に向けては以下のことが見えることを目標とします。

- 現在、教会の雰囲気も、教勢も下降気味である雰囲気から、復興の雰囲気が満ちていることを願っています。
- 未伝地からの脱却 国民の2%が主を信じる国となることを、具体的に取り組み始める。それを示してもおかしくない雰囲気づくり。2023年から7年かけて2%を達成していくビジョンを掲げる。そこへ向けての土壌づくりの7年と位置付ける。
- 2023年のときに、教団レベル、教会レベルでターゲットを出して、みんなで作っていくゴールを決める。
- 教会特区、モデル地区が明確になっている。地域的、地方、県、首都圏などで、モデルケース。
- 地域レベルでの宣教協力が実となっていく。

③ 「手段／方法」集まる、発信する、地域化する、見える化する（モデル）

- 各地で教会増殖ビジョンフェスタの開催（2016年 JCE6、2017年以降は地域を決めて実施）
- 各地のネットワークの構築（北海道、東北、関東、中部、近畿、四国、九州、沖縄）各地でのリーダーを選任。
- 雰囲気づくり。成功体験、励みになる。教会増殖ビジョンフェスタのような雰囲気づくりが必要。具体的に夢が描ける。信徒の方が動いてくださる。
- ファミリーミニストリーとの連携。教会開拓運動とは、教会の核となる、健全なクリスチャンホーム形成運動だと考える。そのために教会が家族形成を支援し、宣教の最前線のクリスチャンホームを、応援していく。
- 祈りのムーブメントが必要
- 開拓のモデルをいくつも示していく。それらをデジタルリソース、文書、著作などで発信していく。
- 神学校での開拓者コースをチャレンジしてみる。
- 現地によるデータ取りをする。現状をきちんと把握するために、各県ごとに、教会数、スモールグループ数、新しい開拓の取り組みなど、きちんとした状況を把握する。（宮城宣教ネットワークのモデルを参考にする）